

【特集】会場移転と奇跡的な晴光に恵まれた運動会 – 総務部の振り返りと報告



2024年9月28日、令和6年度大運動会が実施されました。今年度はA校から聖心SR校への会場移転という大きな変更の中、準備段階から当日開催に至るまで多くの時間と労力が求められる運動会となりました。各種役割のマニュアル書き換え、駐車場の確保や整備、準備・片付けの段取り調整等、当日の運動会を支える地道な準備が運営、教務、校務、事務局で進められ、また前日・当日には多くの保護者・生徒によるお手伝いやご支援が必要とされました。また皆さんも記憶に新しいかと思いま

すが、運動会実施の週にハリケーンによる悪天候が続き、果たして運動会が予定通り実施されるのだろうか？とハラハラとした気持ちで過ごされた方も多かったかと思われます。運営、校務、事務局では当週に数回にわたる開催可否の話し合いが持たれ、専門家のアドバイスも得ながら開催決行を判断、結果として奇跡的な晴れ間の中での運動会開催が実現しました。

前日準備はどうか雨には降られずに済んだものの、当日準備はまだ薄暗い早朝に小雨が降りしき中、総勢40名程による準備が手際よく進められ、予定通りに開催時間に間に合わせることができました。また競技が始まると晴れ間とともに気温が上昇したため、係を設けて以降初めて霧吹き係が出動した他、低学年については午前の競技終了とともに解散となりました。午後については、霧吹き係が生徒席を回り、児童の頭や首に水をかける等、熱中症予防に努めながら競技は予定通り進行し、結果として大事に至るほどの熱中症発症は避けることができました。熱中症予防は今後も大きな課題と考えており、できる限りの対策を講じていきますが、十分な水分補給や帽子の着用等、保護者からお子さんへの日頃からの注意喚起や習慣付けを改めてお願いいたします。



さて肝心の競技ですが、日本語学校の運動会は、幼稚部から高等部、さらには保護者までもが一緒に楽しめるところが醍醐味です。今年は9月に日本語学校に入学したばかりの年中組も頑張った“親子競技”、チェツェッコリダンスを交えたユニークで可愛い“玉入れ”、“大玉おくり”、“タイヤ取り”、“紅白リレー”では雨が残ったグラウンドで泥だらけになりながら挑む生徒たちの姿は例年以上の迫力ではなかったかと思われます。また、赤組、白組、それぞれ个性的でダイナミックな応援合戦は正に見ごたえ十分で、皆の応援にも熱が入り運動会をさらに盛り上げてくれました。そして今年は白組が8年振りの勝利となりましたが、勝っても負けても、皆で力を合わせて頑張った記憶は素晴らしい思い出として生徒たちの胸に刻まれていくことと思います。



運動会は子供たちの成長を感じられる行事のひとつです。夏休み明けからの短期間での練習にもかかわらず、子供たちの一生懸命頑張る姿、喜びの笑顔は想像を超える感動を与えてくれたのではないのでしょうか。そしてその裏側にある校長先生をはじめとする教職員、事務局員、運営委員、さらには多くの保護者・中高生の多大なるご協力によって、成功を収めることができた実感しております。またご来賓、協賛団体、地域やSR校職員の皆様の厚いご支援とご理解にもこの場を借りて感謝申し上げます。

最後に、今年度は会場移転に伴い各所で段取り業務の見直しが多く必要とされ、また天候や気温にも翻弄された運動会となりましたものの、大きな混乱もなく無事に終えることができましたこと、総務部からのご報告とさせていただきます。

【運動会特集】大活躍だった応援団をご紹介します。

ハリケーンの影響から雨が続き、落ち着かない数日を過ごしましたが、奇跡的に雨の合間をぬって令和6年大運動会が無事に開催されました。今回は運動会を盛り上げ、全校生徒を引っ張ってくれた応援団の皆さんをご紹介します。

応援団は中学生・高校生を中心に約60名が活動しています。夏休み明けから、毎週昼休みや放課後などに集まり練習を重ねてきました。運動会当日、赤白両キャプテンは開会式で選手宣誓を述べ、運動会への意気込みを大きな声で語りました。応援合戦では団長を中心に、団員が丸となって積み重ねてきた練習の成果を発揮し、赤組、白組ともに素晴らしい応援合戦を披露してくれました。下級生の中にはダンスを食い入るように見つめノリノリで応援していた生徒もいました。運動会の勝敗は白組の8年ぶりの優勝となりましたが、どちらの応援も甲乙つけがたい



熱演だったと思います。一日中声を張り上げ、みんなを鼓舞し頑張り続けた応援団員一人一人の姿に胸を打たれました。運動会のために素晴らしい演技、応援をありがとうございました！



運動会の当日、応援団の皆さんにお話をお伺いしましたので一部をご紹介します。「足元が悪い中、小さい子たちがとても頑張ってくれている。自分にとっての応援は力のみなものです。保護者も巻き込んだパフォーマンスを心がけました。」(赤組団長/西本成さん)「みんなが楽しんでくれていたらそれで良いです。団長を支えるため、大きな声を張り上げて頑張りました。」(赤組キャプテン/ロイド太陽さん)「練習を沢山したので悔いはありません。去年の経験を活かし、みんなが仲良くできるように副キャプテンとして気を配りました。」(赤組副キャプテン/大谷美月さん)「みんなが頑張る姿は格好良かったです。負けてしまったけど楽しかったです。盛り上げてくれてありがとう。」(赤組副キャプテン/杉田桃子さん)



「練習の時はフォーメーションなど上手くいくかハラハラしていた



が、最後は気合と根性で成功できた。来年の白組は皆さんが主役です。この調子で連覇してください！」(白組団長/ケプキーライナスさん)「団長とキャプテンが協力し合えたからこそ、優勝することができたのでとても嬉しいです。みんな、これからも頑張ってください。」(白組キャプテン/東賢和さん)「応援のビデオを作成し、応援の内容をよりわかりやすく伝えられるよう工夫しました。相談しながら話し合いをうまく進める事ができました。」(白組副キャプテン/小寺聖蘭さん)「応援団の経験はとても楽しかった。みんなのお陰で勝つことができました。ありがとうございます。」(白組副キャプテン/高梨華瑠さん)

【担当教員からのメッセージ】

WJLSの全校生徒児童が一番好きな運動会を中心となって盛り上げる応援団。誰もが注目している応援合戦が素晴らしいのは、応援団の皆の途轍もない熱意と努力があるからです。毎年、5分の応援合戦の為に、赤組らしさ、白組らしさを盛り込みながら、放課後の限られた時間で練習しています。応援団全員の協力がなければできず、皆の気持ちが1つにならなければ成功しない。皆が短い時間で集中し、一緒に創り上げるからこそ感動に繋がる。これぞWJLSの応援団！今年の皆も最高に輝いていました。この感動が引き継がれているから運動会がWJLSの皆にとって大切で大好きな行事であり続けているのだと、私たちは確信しています。

応援団担当：高等部 河部周子・ホーガン潤

2024 年度後期管理運営委員会のメンバー紹介



左:カリクレッテ (総務)
右:河野 (特別委員)



3 列目：中村/寺部/羽田 (教育人事), ジョーンズ/大鶴 (学年代表), 竹内 (広報)

2 列目：生島 (財務), 大島/向山 (教育人事), 大光/ジャコブソン/大杉 (総務), シーブルック (学年代表), ワイズ (広報)

最前列：竹村 (特別委員), グリフィン (財務), 三原校長, 栗原 (委員長), 牛嶋 (副委員長), 樋川事務局長, 青柳 (総務)

新委員のご紹介



大光 麻紀子
(総務部)

9 月より総務部にて学校運営のお手伝いをさせていただくことになりました、大光と申します。4 月に本校に入学した 1 年生の息子がおり、彼には日本語だけでなく、夫の母国語も学ばせています。私自身が昔帰国子女だった経験から、日本語の習得は本人の努力と家族の支援が不可欠であると実感しています。現地校や補習校で日々奮闘しているお子さんたちを、沢山褒めてあげてください！土曜日の授業や休憩時間、さらには学校行事が円滑に進むよう、総務部を微力ながら支援していきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



カリクレッテ 郁子
(総務部)

このたび 総務部 IT 担当として運営委員会に参加させていただくことになりました、カリクレッテと申します。小 4 の娘と小 1 の息子が、日本語学校で大変お世話になっております。先生方が熱心にご指導してくださっていることが、先日行われた運動会ひとつとっても、よく伺うことができます。先生方、また学校運営に関わる全てのスタッフ、保護者の役員の方々には、心から感謝しております。その頑張っている姿を毎週見て、私も陰ながら何かお手伝いができることを嬉しく思います。微力ながら精一杯、できる範囲で頑張りたいと思いますので、皆様どうぞよろしくお願いいたします。



寺部 正記
(教育人事部)

このたび運営委員会の教育人事部に参加させていただくことになりました。息子 2 人が中 3 と小 6 に在籍しており、現在大学生の娘も幼稚園から高 2 までワシントン日本語学校にいましたので、かれこれ 18 年間子供たちがお世話になっております。日本語学校には、子供たちが日本語と日本文化に触れる貴重な環境を提供していただいております。感謝しております。子供たちにより良い教育環境が提供できるよう、先生方と学校・保護者の皆様との架け橋となれるよう微力ながら貢献できればと考えております。よろしくお願いいたします。



ジョーンズ 紀子
(低学年代表)

低学年代表を務めさせていただくジョーンズ紀子と申します。小1の長男とプリスクールに通う長女、米国人の夫との4人家族です。転勤の多い日本での仕事を離れ渡米したのは18年前、カリフォルニア州でのインターンを経て、メリーランドには就職で参りました。子育てを始めてまだ7年足らずですが、子供たちの日本語習得には日本語を話すお友達や家庭同士の交流があって支えられていることを実感しています。多文化環境での日本語教育という共通の関心で沢山のご家庭と補習授業校のご縁が広がるように努めたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

委員長からの報告

皆様、こんにちは。9月最終週の運動会は、お天気が心配される中、保護者の皆様からのご協力の下実施することができました。競技に取り組む生徒児童の姿に、本当にうれしい気持ちになりました。皆様ありがとうございました。初めての会場での運動会からは、来年度以降に向け様々な学びを得ることができました。この経験を今後に生かしてまいります。

また、10月19日には年次総会を実施しました。今回の総会では、年度途中で開設が決定したため別予算として策定していた年中組予算を本予算に組み込むための補正予算審議の他、各小委員会、各部からの前期報告と後期予定を主に発表いたしました。総会に出席してくださった保護者の皆様から寄せられた様々な質問には、日本語学校運営に対する皆様の関心の高さと熱い思いを感じたところです。

総会冒頭の委員長挨拶では、4月の特別総会の時にもお話しした通り、「国語力向上ベーシックプランで設定された数値目標は辞めさせるための数字ではない」ことについて改めてご説明しました。日本語学校は、頑張っているお子さんをご家族を応援する場でありたいと考えます。しかし、万が一「辞めさせられないなら、頑張らなくてよい」という思いがよぎってしまったら、「はて？」と一度立ち止まって考えてみていただきたいと思います。

共働学習の推進には、ご家庭での保護者の皆様からの支えが欠かせません。英語がどんどん強くならざるをえない現地校中心の生活を送りながら、日本語学校にも頑張って通う。保護者はランナー（お子さん）の伴走者として時には厳しく、時にはランナーをおだてながら、距離を伸ばしていきます。簡単ではありません。それを続けているお子さんもお家族も、本当に素晴らしいと思います。そんな皆様の応援のため、そして日本語の環境を整えるために、「日本語学校では日本語を話す」というルールが設けられています。お互いのためにこのルールを守ることの意義を考え行動できるような頼もしい上級生、上級生のお兄さんお姉さんのようになりたいと頑張る下級生たちであふれる日本語学校の姿を願ってやみません。ご家庭でも、今一度お子さんたちに、日本語学校でのルール、日本語環境の維持のためにできること、についてご確認をいただきたいと思います。

引き続き、保護者の皆様からのワシントン日本語学校および管理運営委員会へのご支援をよろしくお願い申し上げます。





委員長： 栗原美恵

副委員長： 牛嶋 崇（パートナーシップ部部長兼任）

総務部： 青柳陽介（部長）・大杉真名美・大光麻紀子・カリクレッテ郁子・ジャコブソン彩子

財務部： グリフィン尚美（部長）・生島奈美

教育人事部： 向山こずえ（部長）・大島由美子・寺部正記・中村公紀・羽田真実子

広報部： 竹内由美（部長）・ワイズ洋子

学年代表： ジョーンズ紀子（低学年代表）・シーブルック留実（中学年代表）・大鶴絵理（高学年代表）

